ゲゲゲの鬼太郎

7



DISC





第 76 話

ぬらりひょんの野望

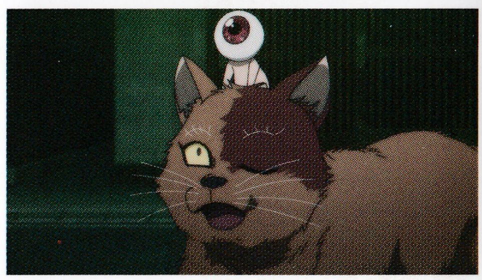
鬼太郎たちの活躍により大逆の四将は全て封印されたが、誰が四将たちを解放したのかはわからないままだった。そんな中、暴れる土転びをどうにかしてほしいという依頼が舞い込んでくる。鬼太郎と土転びが対峙する一方、この事態の裏で暗躍する影の正体とは……!?

演出：内山まな　絵コンテ：なかの★陽　脚本：大野木寛
作画監督：八島善孝　美術：加藤 恵

第 77 話

人間消失！
猫仙人の復讐





町の人たちが次々と姿を消し始めたという依頼を受け、鬼太郎とねこ娘は依頼のあった場所に向かう。しかしそこには人間の姿はなく、ただ猫がいるだけだった。町の現状を怪しむ鬼太郎たちは、巨大な猫の妖怪の後を追って洞窟に入り込んでいった。

演出：中村明博　脚本：大野木寛　作画監督：清山滋崇　美術：加藤 恵





第 78 話

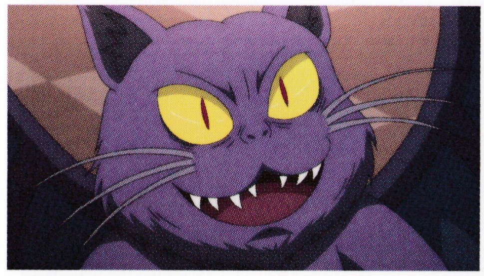
六黒村の魍魎

鬼太郎は写真家の久能から、亡霊に憑りつかれたという依頼を受けた。その夜、久能に襲いかかった女性の亡霊を退けた鬼太郎は、その正体が死体に憑りつく妖怪、魍魎であることに気付く。死体の女性が誰なのか、真相を求めて魍魎の住処であった六黒村へ向かうと……!?

演出：門由利子　脚本：長谷川圭一　作画監督：大西陽一　美術：加藤 恵

第 79 話

こうもり猫のハロウィン大爆発





ハロウィンを控えた街を歩くねずみ男の前に、不気味な影が現れる。西洋妖怪の帝王であるバックベアードの実の息子だと名乗る声の正体は、西洋妖怪のこうもり猫だった。彼はバックベアード復活に向けて血液を集めるため、ねずみ男に助けてほしいと頼み込むが……!?

演出：清水 明　絵コンテ：前島健一　脚本：伊達さん
作画監督：鈴木伸一　美術：加藤 恵





第 80 話

陰摩羅鬼の罠

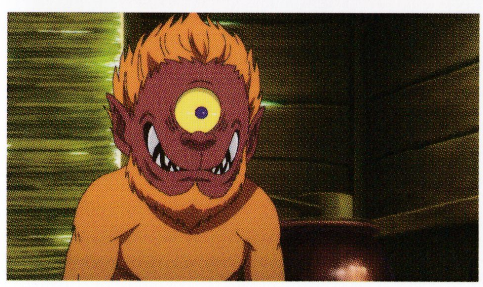
まなの周囲では人間が皺だらけになり、意識を失う奇病が流行り始めていた。そんな中、同級生の努の様子がおかしいことに気付いたまなは、鬼太郎たちにそのことを相談する。例の奇病との関連を疑う鬼太郎がねこ娘と共に努の部屋を訪れると……!?

演出：岩井隆央　絵コンテ：越智一裕　脚本：大野木寛
作画監督：真波三郎　美術：加藤 恵

第 81 話

熱血漫画家妖怪ひでり神

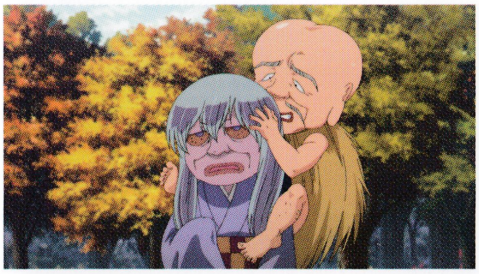




漫画を愛するひでり神は、自分で描いた原稿をいくつかの出版社に持ち込むが、容姿に驚かれ誰も受け取ってくれない。しかしある日、週刊少年マシンガンの副編集長、角富と出会う。彼は妖怪を理由に原稿を突き返さず評価した上で、編集者としてひでり神を指導し始める。

演出：角銅博之　脚本：金月龍之介　作画監督：袴田裕二　美術：加藤 恵

DISC





第 82 話

爺婆（じじばば）ぬっぺっぽう

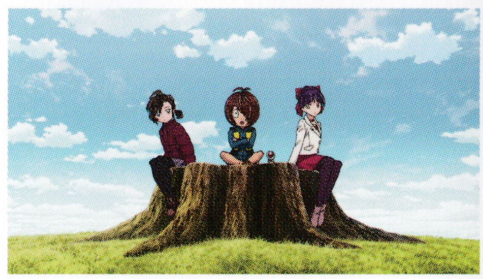
世間では謎の集団老化現象が起き、その被害者は全員、『美ビ美』印の若返りクリームを使用していた。鬼太郎たちは事態を収拾するために、クリームを製造している妖怪ぬっぺっぽうのいる島へ向かう。しかし、上陸した鬼太郎たちが謎の歌を聞いた途端、身体が老化し始める。

演出：内山まな　絵コンテ：八島善孝　脚本：金月龍之介
作画監督：八島善孝　美術：加藤 恵

第 83 話

憎悪の連鎖 妖怪ほうこう

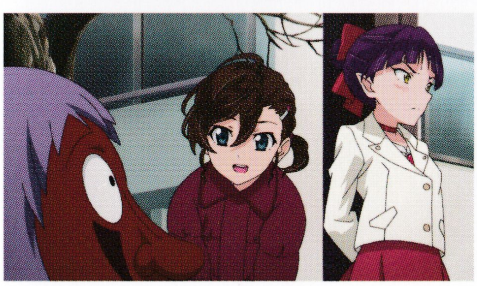




若者が不気味な仮面の妖怪に襲われ行方不明になる事件が相次ぎ、鬼太郎たちは調査に乗り出す。ねこ娘は現場に残されたスマートフォンから、被害者が皆とあるクスノキの写真を撮っていたことを突き止めた。果たして仮面の妖怪の正体と目的とは……!?

演出：古賀 豪　脚本：長谷川圭一　作画監督：市川吉幸　美術：加藤 恵





第 84 話

外国人労働者 チンさん

南方の山奥から日本へやってきた妖怪——通称チンさんは、全裸を理由に捕まってしまうが、まなのおかげで事なきを得る。その後、彼は腰にタオルを巻いてとある職場で働くことになったが、周りの外国人たちに笑顔はない。その理由を知ったチンさんは……!?

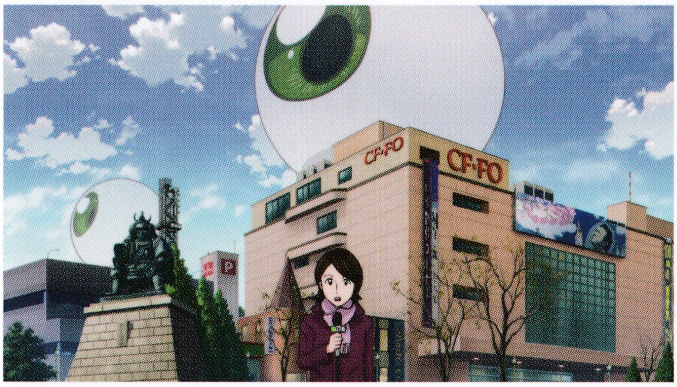
演出：前屋俊広、内野宮晃希　絵コンテ：小川孝治、胡桃野蛍木
脚本：市川十億衛門　作画監督：鈴木伸一　美術：加藤 恵

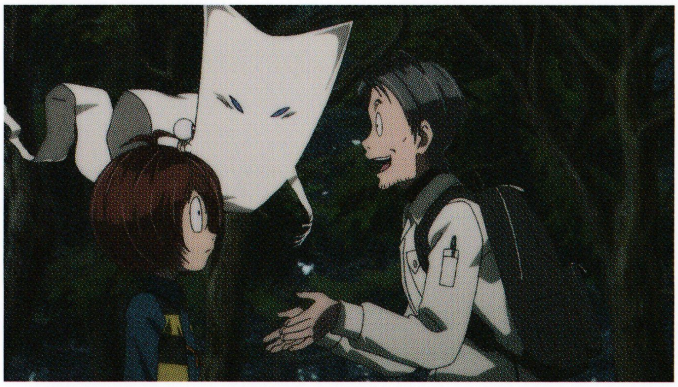
第 85 話

巨人ダイダラボッチ

突如富士山周辺に巨大な眼球が現れた。事態の収拾のために動き出した鬼太郎たちは、門倉という男性に出会う。彼は妖怪、中でもダイダラボッチを専門に研究しており、人間と妖怪の共存する世界を夢見ていた。

演出：竹下健一　脚本：長谷川圭一　作画監督：浅沼昭弘　美術：加藤 恵





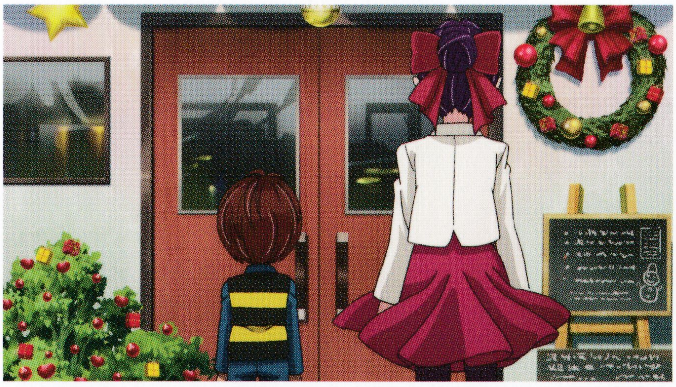
第 86 話

鮮血のクリスマス

クリスマスが迫りにぎやかな街で、子供の失踪事件が相次いでいた。ゲゲゲの森に向かう途中に蒼馬たちと出会うまなだったが、僅かな隙に大翔が姿を消してしまう。彼を探す二人が目にしたのは、不気味なサンタによってミイラ化した大翔だった。

演出：上田芳裕　脚本：井上亜樹子　作画監督：藤原未来夫　美術：加藤 恵





ゲゲゲのお喋り 7



ぬらりひょん役
大塚明夫

×



朱の盆役
チョー

ゲゲゲのお喋り第7回目は、ぬらりひょん役の大塚明夫さんと、朱の盆役のチョーさん。ぬらりひょん編の鍵を握る重要な役柄を演じるお2人に、第6期『ゲゲゲの鬼太郎』出演のお気持ちや、アフレコ現場の印象などをお話していただきました。

念願の『ゲゲゲの鬼太郎』出演！

──お２人は第６期『鬼太郎』２年目からのご出演となりましたが、ご出演が決まったときはどんなお気持ちでしたか？

大塚明夫(以下、大)：そりゃ嬉しかったですよ～。なんたって『鬼太郎』ですから。

チョー（以下、チ）：「うひょ～！ 野沢(雅子)さんのパワーがもらえる～!!」「わ～い！ 沢城(みゆき)ちゃんに会える~~~!!」「やったぁ～！ 古川(登志夫)さんのねずみ男が生で見られる~~~!!」といった感じで、大喜びしました(笑)。

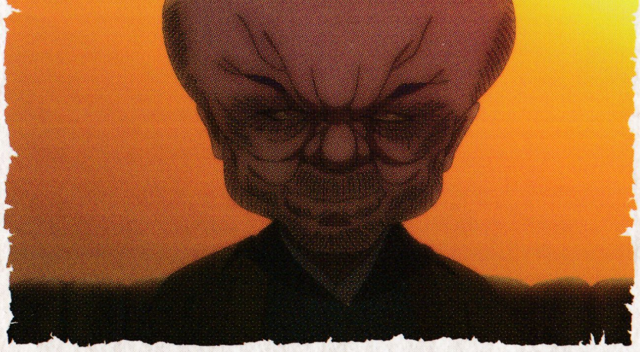
チ：『鬼太郎』シリーズにレギュラーで参加するのは初めてのことなので、そのうれしさもありましたね。

大：実は僕も初めてなんです。

──第６期『鬼太郎』、またこれまでの『鬼太郎』シリーズの印象はいかがでしょうか。

チ：僕は第１～３期あたりは観ていたと思います。大塚周夫さん(第1・２期)と富山敬さん(第３期)のねずみ男が印象に残っています。

大：これまで参加出来なかったことを残念に思っていました。ですが、第6期も非常に見応えのある仕様になっていますよね。今までの『鬼太郎』よりも対象年齢枠が拡大されている感じがします。



チ：第6期は今までのシリーズとはひと味違ったお話が多い印象ですし、脚本家さんは大変ですよね。

お２人は気の合う先輩と後輩！

──お２人が初めて会った時の第一印象は？ また今回『鬼太郎』で共演するにあたってのお気持ちをお聞かせいただけますでしょうか？

大：チョーさんと出会ったのは、私が声の世界にお邪魔し始めた頃ですので、どんな作品だったか……よく覚えておりませんが、「爽やか青年」という印象でしたね。

チ：僕は「腹のすわった役者さんだなぁ」と思いましたね。

大：チョーさんのほうが先輩なのに(笑)。お会いするのも久しぶりだったので、『鬼太郎』でチームを組めるのがうれしいです。

チ：こちらこそ。ぬらりひょん明夫様について参りますよぉ～!!

大：(笑)。

──ぬらりひょん編の鍵を握る重要な妖怪である、ぬらりひょんと朱の盆を演じるにあたって、意識した点はございますでしょうか？

大：底の知れない感じ、得体の知れない凄みみたいなものを身に纏うつもりで演じています。これがなかなか難しいんですよ。

チ：僕は特に意識をせずに、自然体で演じています。

『鬼太郎』ファミリーに入りたい！

――アフレコ現場の雰囲気はいかがでしょうか。

大：引き締まっているのにリラックスしている、絶妙な空気感です。

チ：野沢さんの雑談が最高ですよね！ デパートの屋上でやっていた『鬼太郎』の着ぐるみイベントのお話とか……元祖着ぐるみショーじゃないかという。東映さんの着ぐるみショーはここから始まったのかも!? という、ここでは言えないようなチョーいい加減な時代のお話です（笑）。

大：野沢さんのおかげもあって、『鬼太郎』は理想的な現場になっていると思います。ファミリーの繋がりも素晴らしい。

チ：『家族そろって歌合戦』をまだやっていたら、出ていただきたい（笑）。古いですね（笑）。本当に仲が良くて、うらやましいファミリーです。

大：私もファミリーに入れていただきたい（笑）。

ぬらりひょんは"クソジジイ"感がいい？

――第６期『鬼太郎』で、印象に残っているエピソードやキャラクターはいますか？

大：沢城みゆきさんの演じる鬼太郎は、流石といった感じですね。

チ：本当に。生身の人間を感じますよね。

大：あと僕が印象に残っているエピソードは、第８２話「爺婆ぬっぺっぽう」ですね。子泣きじじいと砂かけばばあが愛おしくて。

チ：僕はなんと言っても、ぬらりひょん！

大：ありがとうございます。

チ：ぬらりひょんは、「このクソジジィ！」って感じがいいです（笑）。

――このBOXに収録されているお話以降は、鬼太郎とぬらりひょんの戦いがさらにヒートアップしていきますが、これからの意気込みをお聞かせください。

大：ぬらりひょんが何ゆえ妖怪の総大将と言われ



るのか。皆様にお教えしたいと思っております。

チ：やっぱり、ぬらりひょんはいいですね～。朱の盆は本当に強いのかなぁ？

大：ぬらりひょんの忠実な部下ですから、強いに決まっていますよ（笑）。

チ：ちょっと不安です。僕としてはできれば鬼太郎さんとは仲良くやりたいんですよ（笑）。

妖怪ポストへの切実なお願い！

――もしも妖怪ポストがあったら、何かお願いしたいことはありますか？

大：僕はぬらりひょんとしての立場もありますので、鬼太郎にお願いすることはございません（笑）。

チ：僕はねこ娘にお願いをしたいですね。

大：鬼太郎じゃなくて、ねこ娘にですか？

チ：ウチの猫のどんちゃんが懐かないので、懐くように言って欲しいです（笑）。

――最後にBOX７を買ってくれたみなさんにメッセージをお願いします。

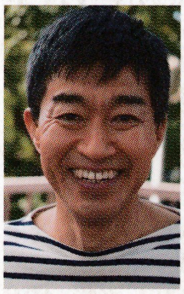
大：ご購入いただきまして、まことにありがとうございます。『鬼太郎』で野沢さんとご一緒出来たことは、生涯の宝と心得ております。チョーさんとコンビが組めたのも、大変うれしかったです。どうぞ引き続き『鬼太郎』を、ごゆっくりお楽しみください。

チ：鬼太郎は、ず～～～～っとあなたのうしろにいますよ！



大塚明夫

東京都出身。マウスプロモーション所属。
代表作は『ブラック・ジャック』シリーズ ブラック・ジャック役、『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX / S.A.C. 2nd GIG』バトー役、『ONE PIECE』マーシャル・D・ティーチ役、ゲーム「METAL GEAR SOLID」シリーズ スネーク役など。



チョー

埼玉県出身。俳協所属。
代表作はNHK『いないいないばあ！』ワンワン役、アニメ『ONE PIECE』ブルック役、『犬夜叉』シリーズ 邪見役、『ペンギンの問題』井上マイケル役、『ケンガンアシュラ』山下一夫役、映画『ロード・オブ・ザ・リング』シリーズ ゴラム役など。

永富×小川の

ゲゲゲの部屋



プロデューサーの永富とシリーズディレクターの小川監督が、スタッフを招いて『ゲゲゲの鬼太郎』第６期について語り合う連載コーナー第７弾！ 今回は撮影監督の鈴木那智さんにご登場いただき、第６期で注目を集めている撮影技術について語っていただきました。



プロデューサー
永富大地

×



シリーズディレクター
小川孝治

×

撮影監督
鈴木那智（旭プロダクション）

撮影の力で『ゲゲゲの鬼太郎』がパワーアップ！

――まずは、撮影監督というお仕事について教えてください。

鈴木（以下、鈴）：撮影監督は、主に小川監督や演出さんから要望があった画面のエフェクトや処理の作成のほか、各シーンの処理の統一をはかる仕事をしています。

永富（以下、永）：東映アニメーションではTVシリーズでここまで撮影技術を使うことはあまりなかったんですが、現在の最新の技術を使うと画面をパワーアップさせることができるし、演出の力をより引き出すことができるので、旭プロダクションさんにお願いをしたんです。

小川（以下、小）：最初は旭プロダクションの石山智之さんが撮影監督をされていて、２年目から鈴木さんに変わったんですよね。

鈴：そうですね。石山は同じプロダクションの先輩で、１話目から一緒に仕事をしながら技術を教わってきました。

小：鈴木さんには西洋妖怪編から撮影処理をお願いしました。第28話「妖怪大戦争」の鬼太郎のオーラや、第37話「決戦‼バックベアード」のビームもそうですよね。

鈴：はい。

永：石山さんが作った財産があって、鈴木さんはそれを上手く引き継いでくれたと思います。

鈴：石山からこれまでの作品の方向性や小川監督の好みも教えてもらいましたから。

小：好みって、何を言われたんですか（笑）。

鈴：「親子が一緒に観て、一緒に楽しめる作品にしたい。とにかく派手に！ 豪華に！ カッコよく！」と。撮影監督を引き継いで、続けていくうちにこの言葉に確信を持てるようになりました。

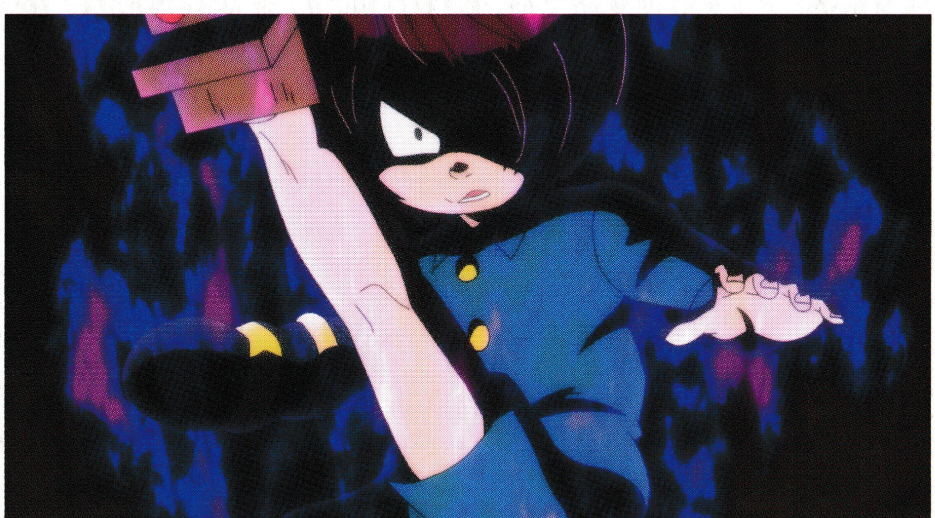
『鬼太郎』の撮影の見どころ

――撮影監督になり、小川監督からはどのような要望がありましたか？

鈴：光や影の入れ方ですね。

小：妖怪のアニメなので、妖怪はもちろん風景でも日常の中のリアリティをしっかりと出したかったんです。光の使い方や、光とは逆の闇の部分をどう見せるのかというのは、立ち上げのときから永富さんや石山さんと綿密に話し合いました。

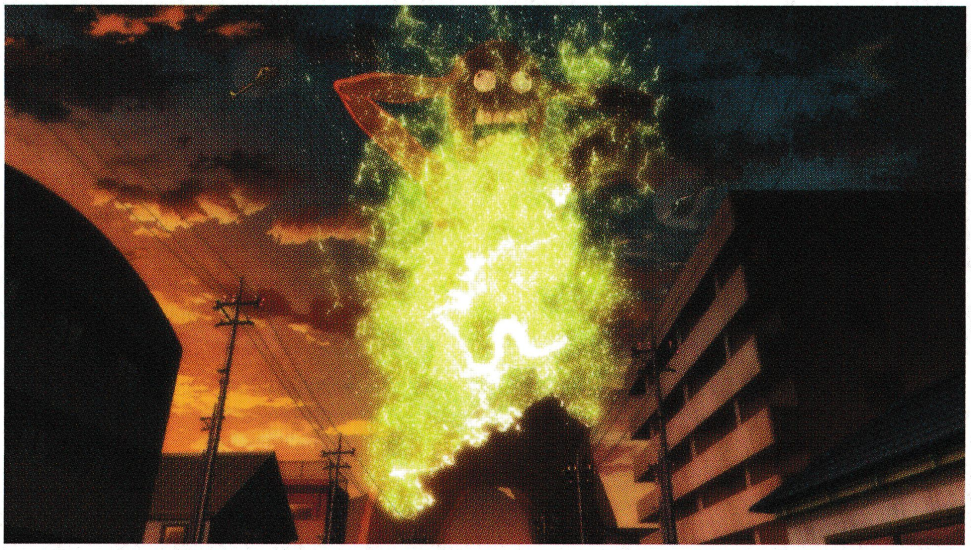
永：立ち上げのときは、僕の方でも光と影の演出で「こうしたい」という要望があったので、資料をたくさん集めてきて、『鬼太郎』らしい光と影の演出を、小川監督と石山さんで考えてほしい」と提案したんです。今の撮影技



第28話　鬼太郎のオーラ 撮影処理後

術と小川監督の演出力で、『鬼太郎』の世界に確変を起こしたかったという、裏の狙いもあったんですけどね（笑）。
小：「第６期オリジナルの技術とは？」というところから考えましたからね。
鈴：撮影の技術が進化したので、今までのようにセルと背景を合わせただけでは、どうしても平面的に見えてしまいますからね。
永：間違いなく、撮影効果が入っているほうがいい絵になるんですよね。きちんと撮影を入れていかないと第６期っぽくならないので、そこに関してはハードルを上げています。
小：あとは妖怪の目は特にしっかりと描きたいというオーダーをしました。ハイライトに光を入れたり、その周囲のトーンを落としたりして、存在感を出してもらっています。
鈴：顔のアップや決めカットでは、塗りだけだとどうしてものっぺりとしてしまうので、撮影で細かく影やテクスチャーを足して情報量を増やしています。
小：デジタルエフェクトで情報をプラスすれば、必ず良くなるわけではないのが難しいところですよね。『鬼太郎』の場合は、やっぱり水木しげる先生らしさというのがなくてはならない。
永：撮影も含めて、第85話「巨人ダイダラボッチ」は、かなり気合を入れて作りましたよね。
小：各シリーズに登場している妖怪だから、第６期ならではのダイダラボッチを作り上げる必要がありますからね。
鈴：撮影でも苦労しましたね。ダイダラボッチは演出さんから「巨大感がほしい」という要望があったので、崩れていく粒子の量で質量と厚みを表現して、巨大感を出しました。
永：『鬼太郎』は１話完結だから、各話の演出が自由にやりやすいんですよね。


第85話　ダイダラボッチ 撮影処理前


撮影処理後

小：自由にやっているんだけど、基準となる部分がしっかりしているので、各話で突飛なことをしても、作品のクオリティとしてはバランスが取れている。
永：今回は撮影に無茶を言う演出さんが揃っていた、というのもありますね（笑）。
鈴：自分はテレビシリーズで撮影監督をするのが初めてだったので、毎回「あれでよかったんだろうか？」と悩んでいたのですが、演出さんからお礼を言われたり、「この話数でもあのときの処理お願いします」とお願いをされたときは、うれしかったです。
永：監督と撮影監督と各話演出のやり取りの中で、各話のクオリティがより研鑽（けんさん）されていくんですよね。撮影監督が「こんな風にやれますよ」みたいな提案をしてくれると、プロデューサーとしては「しめしめ」といった感じです（笑）。
――『鬼太郎』の撮影で特に意識していることを教えてください。

鈴：打ち合わせの内容から各話でどこを一番見せたいのかを考え、盛り上げる場所や雰囲気を抑える場所を整理して、限られた時間の中で最大限のクオリティが出せるように心がけています。

小：『鬼太郎』は、最低限のことをやるだけでも大変なんです。鬼太郎がアップになるだけでも様々な光や影などの処理がかかりますから。基本的な処理はこちらから指示をしなくても、撮影で入れてきてくれるので、ありがたいですね。

永：東映アニメの他のタイトルではなかなかないことです。

鈴：ありがとうございます。

小：妖怪の体もちょっとテクスチャーを入れて、人間よりも影をぼかしているんですよね。

鈴：はい。

永：アバンのところもフィルターがかかっていますよね。それに加えて陰影も強くすることで、怖いアニメだというメッセージが上手く伝わっていると思います。

――第6期ならではの撮影の見どころを教えてください。

小：西洋妖怪編は撮影の面でも、ひとつの転換期でしたよね。

鈴：西洋妖怪たちは魔法を使うので、細かい設定を把握するのにすごく苦労をしました。

小：特にアニエスは魔法を使うから、そのエフェクトにはかなりこだわりましたね。光を綺麗に輝かせるのは、難しいんですよ。

永：やっぱりセンスですよね。何を美しいと思えるかというのはセンスだと思うので、そういう意味では『鬼太郎』の撮影は素晴らしいと思います。

鈴：ぬらりひょん編では、ぬらりひょんのアップのカットは特にこだわりました。２年目のキーパーソンですからね。肌のノーマル色と影色の間にさらにもう一段階色を入れて彫りの深さや凄みを表現したり、少し肌にテクスチャーを入れて、質感を足したりもしました。

小：第78話「六黒村の魍魎」は写真家の物語ということもあって、撮影に気合いが入っていましたね。

鈴：第78話では、登場する写真に色味を変えるフィルターを入れたんです。普段はあまり色味を変えたりをしないのですが、キャラクターの心情や雰囲気を出すために、演出さんと話し合って処理を加えました。今のカメラの性能を意識して、どの写真にも様々な色味のフィルターを使用していますので、そこにも注目してもらえるとうれしいです。

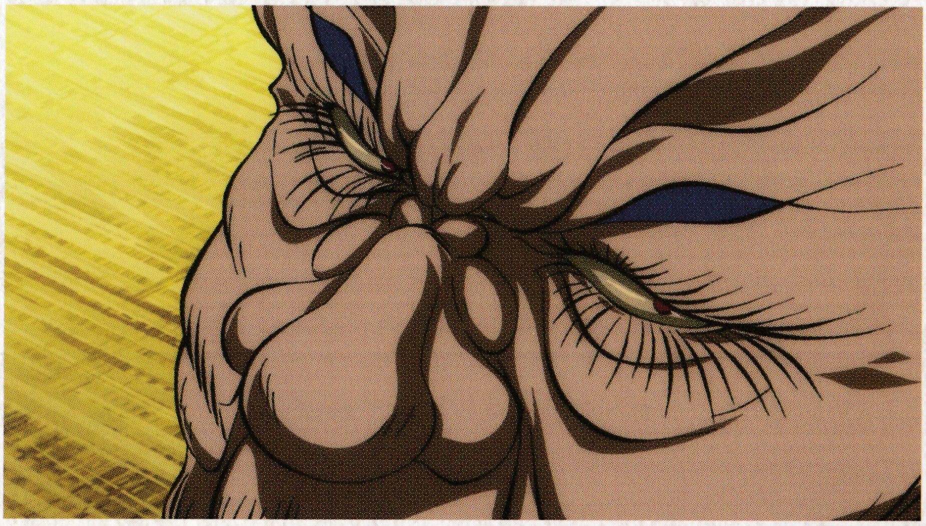
永：写真家の最高の１枚の写真は、本当に美しかったですからね。

鈴：最高の１枚ということで、女性を美しく見せるためにかなり力を入れましたね。水面のゆがみや光だけでなく、気泡も足して水の中に沈んでいくような表現を出しました。

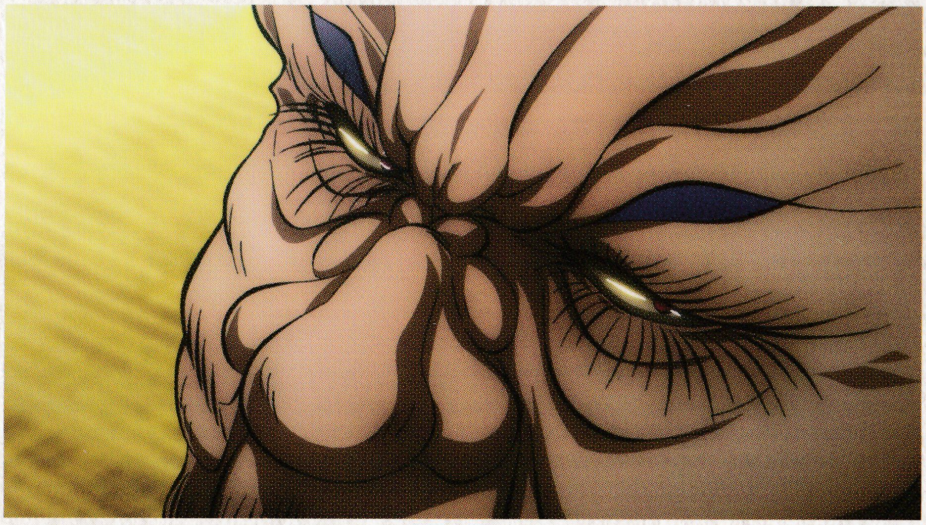
小：あれは美しかったですね。

永：第81話「熱血漫画家 妖怪ひでり神」の漫画っぽい処理も面白かった。

小：光の処理とはまた違った技術で、面白いですよね。



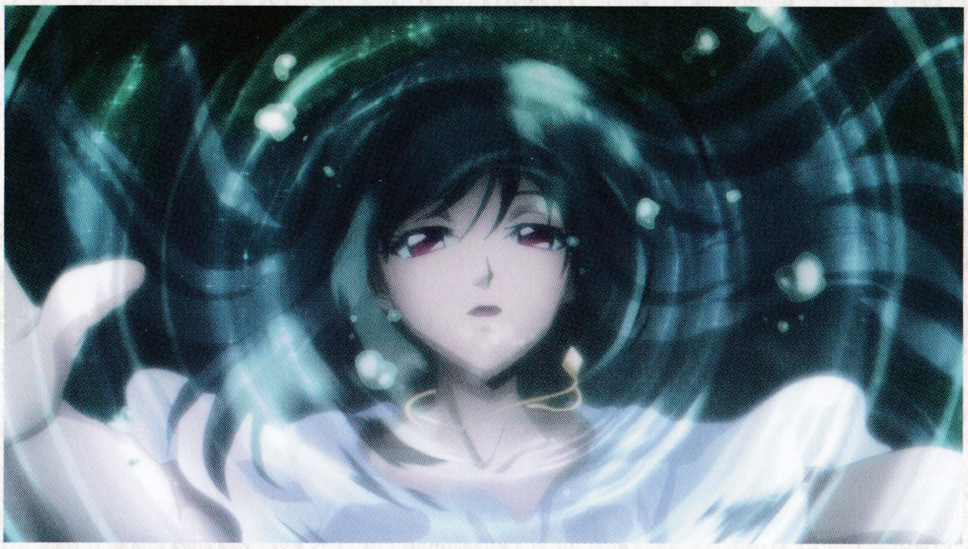
第77話　ぬらりひょんのアップ 撮影処理前



撮影処理後

鈴：演出さんから「いつものキャラクターたちを漫画調に変えてほしい」というオーダーがあったんです。キャラクターを白一色にした後、実際の漫画を描くようにトーンを貼ったり黒ベタを入れたりしました。
永：この処理だけでも、何度も観たくなります。
鈴：このカットは、演出さんに劇画タッチにしてくださいとお願いされました。実際に画用紙に筆で描いたような表現になるように撮影では、髪・服・主線など部分ごとに分けてそれぞれにテクスチャーを入れています。
小：バックの集中線も、より劇画っぽく処理されています。


第78話　最高の1枚 撮影処理前


撮影処理後

キービジュアルにも撮影の技術が！

――キービジュアルにも、撮影の技術が使われているそうですね。
鈴：ぬらりひょん編のキービジュアルが印象的でしたね。
永：あの文字の使い方は、画期的ですよね。
小：文字がないと鬼太郎とぬらりひょんの単純な対立構造になってしまいますからね。文字を入れることで、人間と妖怪の複雑な対立構造を見せたかったんです。僕が考えた文字を撮影さんに細かく調整してもらって、カッコいいキービジュアルになりました。
鈴：小川監督から文字に込めた思いや、鬼太郎が人間や妖怪とどう向き合っていくのか、ぬらりひょんという妖怪を今後どう見せていきたいのかを直接お聞きすることができたので、それを参考にして雰囲気作りをしました。
小：最終回の展開や、そこに行き着くまでの方向性は決まっていたので、その想いを詰め込んだ感じですね。最終話を観たあとにキービジュアルを見ると「ああ、そういうことか！」と、解ることがあると思います。
永：逆算して作ったわけですね。

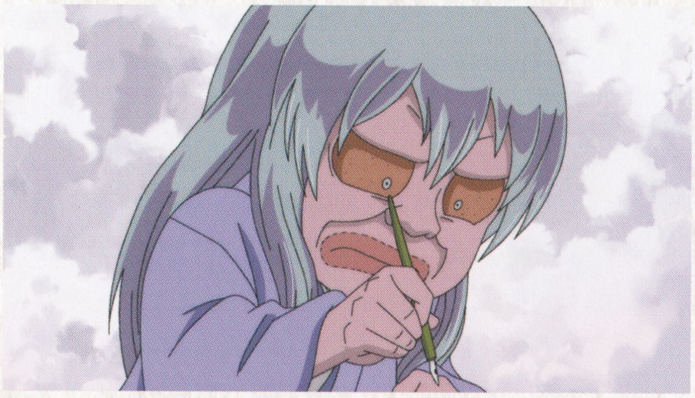
歴代シリーズへのあくなき挑戦！

――鈴木さんが、特に印象に残っているエピソードやキャラクターはいますか？
鈴：第7話「幽霊電車」はかなり力を入れましたね。
小：脚本の段階から演出と撮影処理がバッチリはまってましたもんね。
永：各期で必ずやるお話なので、今までのシリーズより面白くしたいという使命感がありましたね。
鈴：上司が現実世界だと思っていた所からあの世への場面の転換や、自分の死を自覚した場面が特に記憶に残っています。
永：夜中に観たらけっこう怖いですよね。放送が朝でよかった(笑)。
鈴：あと、印象に残っているのは第84話「外国人労働者チンさん」(笑)。

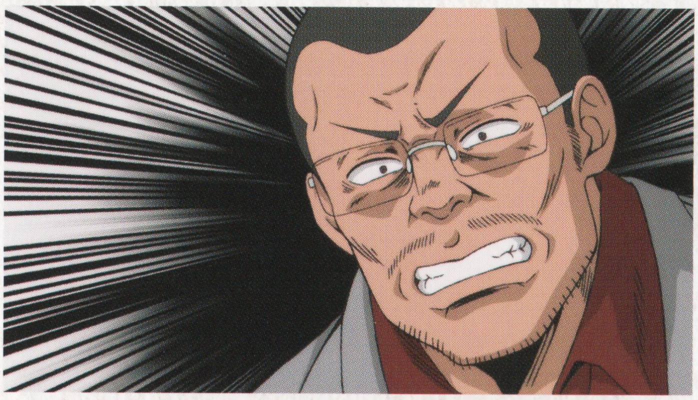
永：チンさんは小川監督ご自身みたいなものですから(笑)。
小：第６期が決まってから、ずっとやりたいと思っていた話です。
永：チンさんをオープニングにも出したくらいだからね。綱引きをしているカットにいるので、みなさん注目してみてください。
――では最後にBOX７を買ってくれたみなさんにメッセージをお願いします。
小：BOX７では、いよいよ最終章のぬらりひょん編に突入します。『鬼太郎』を最後まできチンと作って行きますので、どうぞみなさんよろしくお願いします。
永：ぬらりひょんを演じている大塚明夫さんのお父様は、初代のねずみ男を演じていた大塚周夫さんです。『鬼太郎』の長い歴史を象徴する素晴らしいキャスティングと、大塚さんの迫真の演技にご注目ください。



鈴：『鬼太郎』の放送後の感想を読んでいて、特に力を入れていたところが話題になっていると、とてもやりがいを感じます。これまでの『鬼太郎』での経験を生かして、キャラクターたちの心情や場の雰囲気を精一杯表現していますので、キャラクターの動きだけではなく、エフェクトや撮影で足している処理などにも注目して観ていただけるとうれしいです。



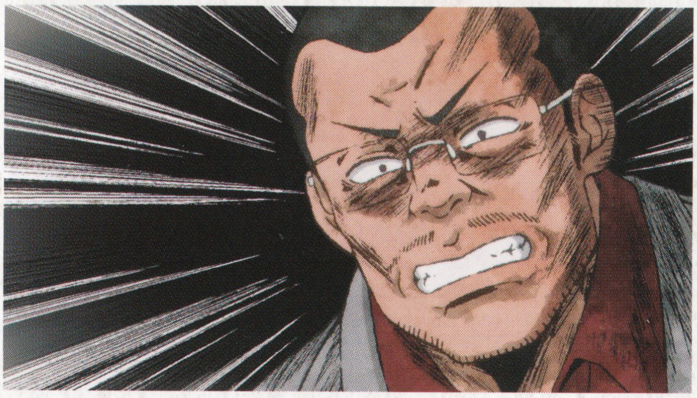
第81話　漫画風 撮影処理前



第81話　漫画風 撮影処理前



撮影処理後



撮影処理後

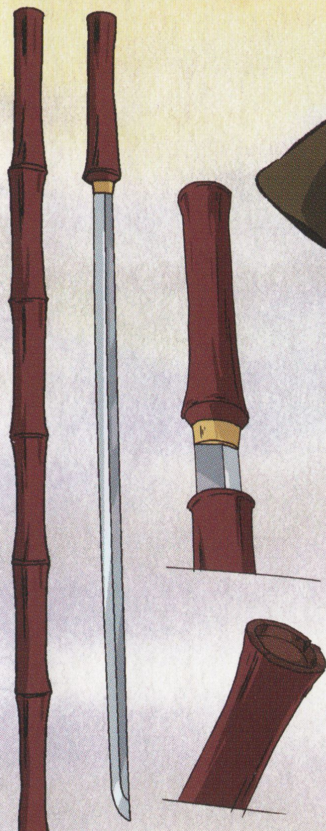
ぬらりひょん編 キービジュアル

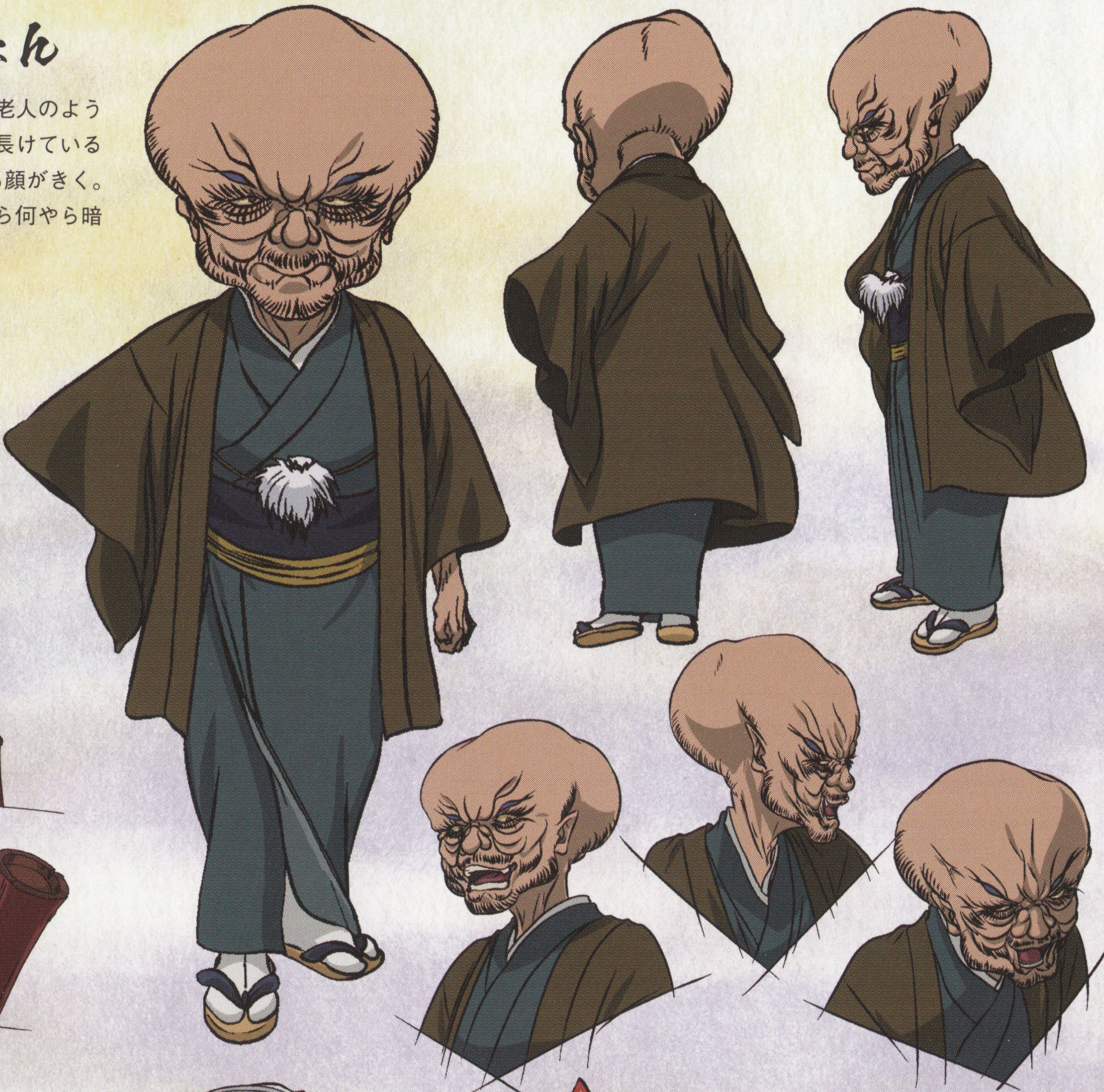


キャラクター紹介

ぬらりひょん

身なりの良い、和装の老人のような妖怪。かなり智謀(ちぼう)に長けているようで、人間の政界にも顔がきく。大逆の四将騒動の前から何やら暗躍していたようだ。







朱の盆

大きな赤ら顔の妖怪。ぬらりひょんの忠実な子分。知能は高くないが、かなりの戦闘力の持ち主。



#76 土転び

どんぐりの森で静かに暮らしていた妖怪。三百年かけて作った住処の森を伐採されてしまったことに激怒している。



#77 猫仙人

猫仙術を極めた猫の妖怪。
猫を取り巻く過酷な現実に激怒している。

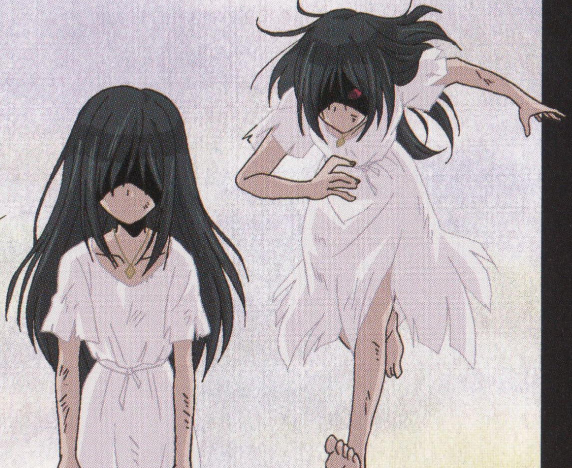




#78 魍魎

死体に憑りついて操る妖怪。叫び声で付近の怨霊を呼び寄せることもできる。弱点は強い光であるため、夜にしか行動できない。





女性の死体に憑りついた姿

#79 こうもり猫

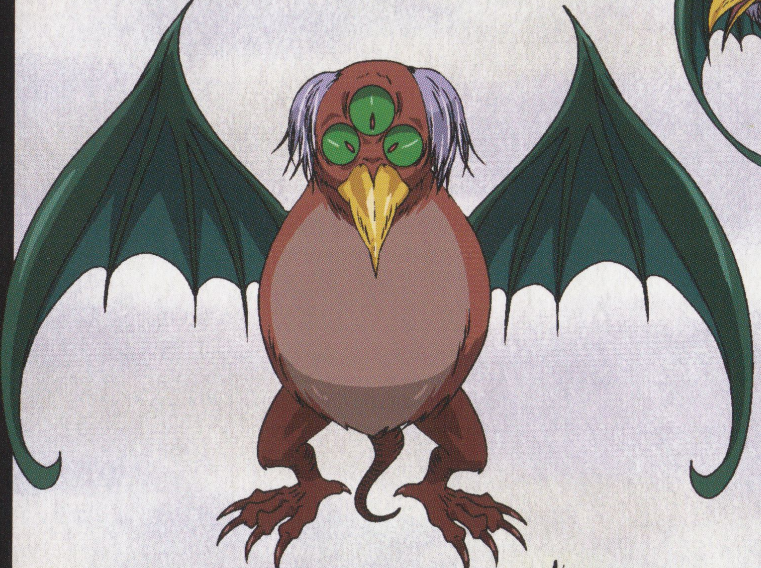
こうもりの翼が生えた猫の姿をした西洋妖怪。
バックベアード復活のため血液を集めるべく
日本を訪れる。



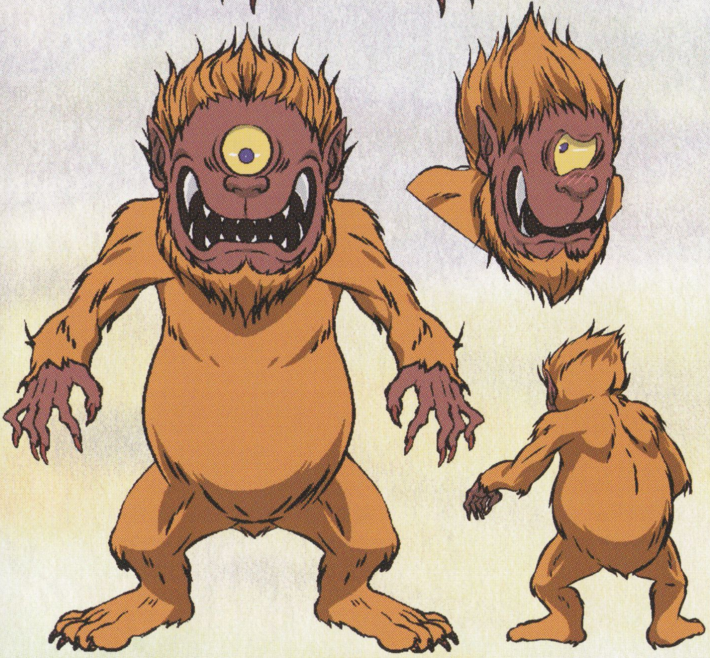


#80 陰摩羅鬼（おんもらき）

自在に動く尾を持つ巨大な怪鳥。死体に憑りつき、他人
の生気を吸収する。体と魂を分離させることができる。







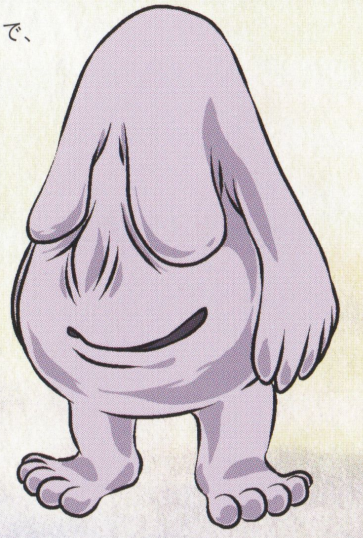
#81 ひでり神

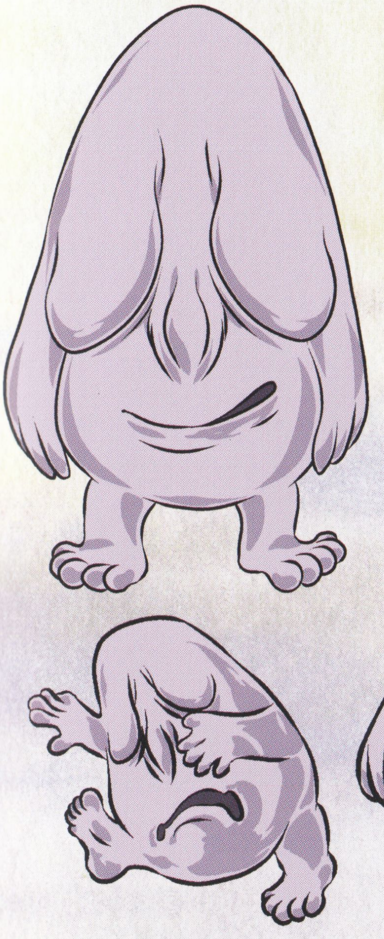
全身が毛に覆われたひとつ目の妖怪。身体から炎を発することがで
きる。漫画好きが高じて、自分でも描くようになった。



#82 ぬっぺっぽう

妖術で怪しげな歌を聞かせることで、
相手を老化させることができる。







#83 ほうこう

樹齢二千年以上の木に宿るといわれている妖怪。住処の木を
切られたことに激怒し、事態を招いた若者たちを連れ去って
は巨大な漬物樽で大根と一緒に漬けていた。





#84 チンさん

貧しい村で育った南方妖怪。村の仲間に楽チンな生活をさせるために、日本に出稼ぎにやってくる。正義感が強く正直な性格である。

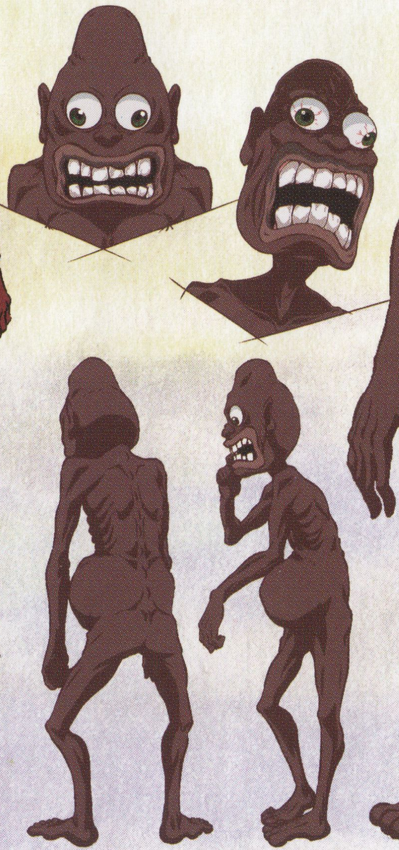


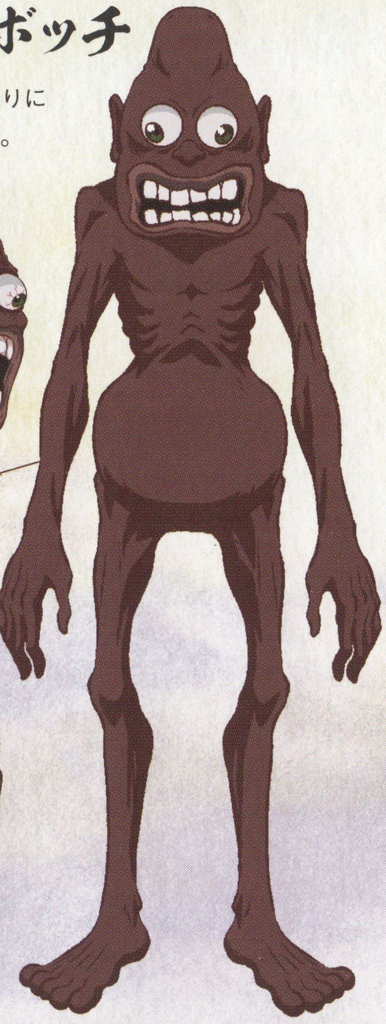




#85 ダイダラボッチ

自分の身体を八つに分けて眠りについていた、伝説の巨人妖怪。





#86 夜叉（やしゃ）

長い髪の毛を操り、人間に絡みついて生気を吸う妖怪。人間に憑りついて、サンタの格好をすることで子供をおびき寄せ、その生気を吸いとっていた。

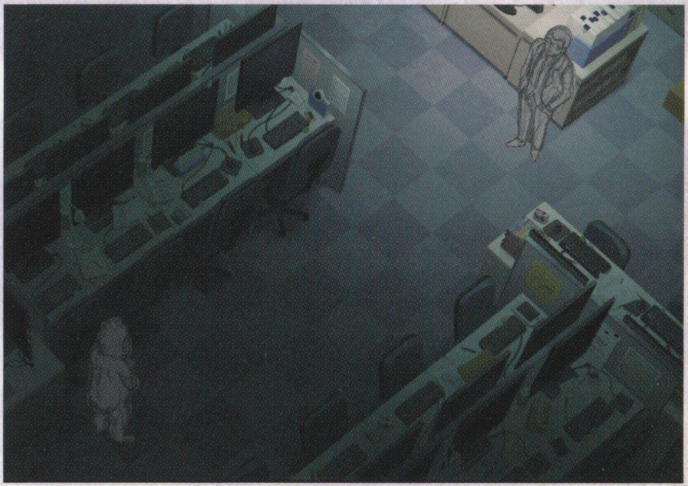




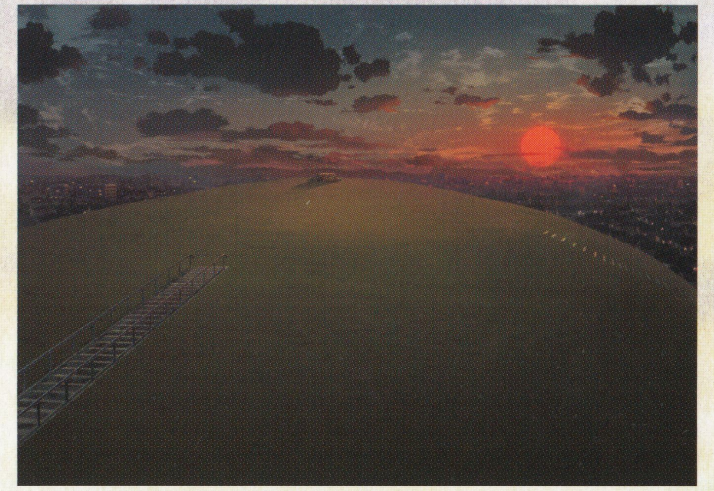
美術ボード











BIXA-9067/BIBA-9077

デザイン：バナナグローブスタジオ

